



＜あなたの中のイタリアを探して＞

イタリアに興味を持ったのは私がまだ5歳の時。家族の影響でイタリア・オペラの傑作、ヴェルディの『椿姫』の舞台に触れる機会を得て、一気にオペラに恋してしまっただけがきっかけでした。その時は、イタリア語というよりはオペラに惹かれていたのですが、幼心に、美しい音楽に乗って歌われるイタリア語のリズム感、音楽性、生き生きとした感情がそのまま宿っているかのような独特の響きに魅せられていったのを今でも覚えています。

その後ウン十年が過ぎ、実際に語学としてイタリア語を学ぶようになったのは最近のこと。それまで、オペラ以外にイタリア語に触れる機会はほぼなかったため、歌ではなく、話されるイタリア語をまともに耳にしたのは、イタリア語の講座に通うようになってからでした。まずもって驚いたのは、オペラで聴き慣れていた、あのリズム感や音楽性がそっくりそのまま日常の言葉として話されていることでした。普通に話されているイタリア語にちょっと大げさに抑揚をつければ、「そのままオペラになってしまいそう！」というのがイタリア語を聞いた時の第一印象でした。あの美しい響きと音楽性に少しでも近づいてみたい。その奥には、「人々のどんな思いが秘められているのだろう?」「みんな、どんな気持ちであの魅惑的な言葉を話しているのだろう?」そんな、オペラを聴き始めて以来、私の胸に宿っていた素朴な疑問が再びツツツと湧き出てきて、その好奇心に導かれるままに進んでいったら、なぜかイタリア語講師をすることになって、今日に至ります。

子供が母国語を習得するのを見れば明らかのように、語学習得の基本は「真似」であると言ってよいと思います。耳に入った言葉や表現を、そのまま口に出して繰り返す。意味がわかるようになれば実際に使ってみる。読んだり聞いたりした言葉を書いてみる。最初は月とスッポンかもしれませんが、めげずに続けていると、もっと「イタリア人っぽく」「イタリア語っぽく」するにはどうしたらいいのか?ということに、次第に意識が向くようになっていきます。ここの発音は「もっとこうすればホンモノに近づけそうだ」「書く時にはこの言葉はあとに持ってきた方が、流れがよくてホンモノっぽい感じがする」などなど。そして「自分が感じていることや伝えたいことを一番的確に表すにはどうしたらいいか?」ということにも意識が向くようになっていきます。そうすればしめたもの。あの、悪名高い(?)接続法なども、「自分が言いたいことを伝えるにはこれがどうしても必要!」と気づくと、いやでも習得してやろうという気になるものであって、嫌々覚えるだけではなかなか身につかないでしょう。このように、私のイタリア語習得は、憧れと、「真似」と、自分の伝えたい思いとの間を行き来する旅であったように思います。美しいものへの純粹

な憧れと、自分の中にある、伝えたい思い。この、子供のような無邪気な気持ちが底にあってこそ、時折難解のため息をつきたくなる文法や発音、聞き取りの「壁」を超えていけるのだと、しみじみ感じています。

語学をやっている面白いのは、違う国の言葉を話すことで、普段日本で生活している時にはお目にかかれない、新たな自分の一面に出会えることです。イタリア語を「イタリア人っぽい発音で」話そうとしてみると、日本語を話す時に、いかに顔の筋肉を使っていないかを痛感させられるでしょう。大きく口を開け、目を見開いて、頬や口周りの筋肉、舌の奥の筋肉などを柔軟に保ち、それらを総動員しないと出せない発音や響きがあるのを、経験された方は多いのではないのでしょうか。そして、そういう筋肉の使い方をしていて、面白いことに心理面でも変化が出てくるのです。もっと大胆になったり、オープンになったり、いつもより熱く自己主張できたり、時には「愛してる」などという日本語では滅多に言えないセリフを言えるようになったり(!?)……。「イタリア人って、大らかで人見知りしなくていいな」「感情表現が豊かでもいいな」などと「憧れて」いたその要素が、ほかでもない自分の中から自然と湧き出てくる瞬間です。母国語ではない言語という「刺激」を受けて、これまで知らなかった自分の一面が引き出されるのは、忘れていた宝物を見つけたような、ちょっと素敵な気分です。そして、「自分」とは、それまで思っていたよりももっと大きくて、幅広くて、深くて、可能性に満ちた存在なのだと感じられるようにもなります。



語学の勉強は、縁があれば一生続くもの。時には文法を習得するのにうんざりしたり、試験の結果に一喜一憂したり、一見進歩がないように思えてため息をつきたくなることもあるでしょう。そんな時こそ、イタリア語を学ぶことで出会える新しい自分、イタリア語の中にある「自分らしさ」を感じてみてはどうでしょうか。それとともにイタリア語を始めた時の気持ちを思い出し、新鮮な情熱が再び湧き出てくるのを感じる。実はこれが上達への近道だと、私は思っています。そうすることで語学習得の山も超えられ、何より、イタリア語でコミュニケーションする際に、その人らしさ、その人の美しさが自然とにじみ出るようになります。文法も、試験も、その人の魅力を引き立たせるためのプロセスでこそあれ、「翻訳機械」にしてしまうものではないのです。

あなたの中のイタリアを、探してみてください。

<目標を実現させる前向き思考を持とう>

オペラに携わる仕事をして 35 年。しかしイタリア語を習い始めたのはここ 4 年のこと。楽譜上の古いイタリア語を読むには既に出版されている対訳本があれば十分だし、イタリア語もドイツ語も、フランス語もロシア語も歌唱するための外国語だと認識し、コミュニケーションのツールだとは考えたこともなかった。ところが最近では外国人を招いても通訳不在のプロダクションであったり、たとえ通訳のいる現場でも、自分の耳で直接彼らの言葉を聞きたいと思うようになり、勉強を始めた。もっとありていと言え、一度に 5 人のイタリア人が来日するプロダクションに参加することが決まり、慌てて勉強を開始したのだ。しかし 40 歳代後半で始めた勉強はなかなか頭に入らない。"習った端から忘れるお年頃"にどっぷり浸っていることを痛感した。レッスンを録音して繰り返し聞いても毎回新鮮に驚くことができる！ さすが"お年頃"である。



勉強を始めて 9 カ月、"彼ら"はやってきた。蓋を開ければイタリア人は 2 人だけだったが 5 人ともマルケ州ペーザロゆかりの人物で、イタリア語が共通言語だった。彼らと必死で過ごした 3 週間、自分の意見を伝えることは困難だったが、彼らの言いたいことはかなり理解することができた。そうなる则ち自分の実力を見極めたくなり検定に興味があつた。5 級に加え 4 級も受けてみようかなと学校に相談したところ『『作文を勉強して 3 級を受けてみたら？』と A 先生が言っていたわよ』と驚きの答えがかえつてきた。そこで思い切つて 15 年秋季に 4 級と 3 級を受験し、合格。勉強を始めて 1 年 3 カ月で 3 級まで一気に通過した。検定のための勉強を一切せずに受験するという、イタリア語検定の難しさを知らないままの合格だった。また後々聞けば学校側の予想は「4 級は受かるだろうが 3 級は難しいだろう」ということだったようだ。今となればあの頃の自分はとても前向き志向だったのだと回顧する。思つてもみなかった 3 級が視野に入り、「難しい」ではなく「受かるかも」と未来が大きく開けたのだ。勿論その為には自分を信じられるだけの勉強量と、知る楽しさと喜びが必要だった。

また受験前に知人のブラジル人ピアニストから「語学の学習ならその国の言語で日記を書いたらいいよ」と勧

められた。彼は 7 カ国語を操り世界中を飛び回っている。

私は早速書き始めた。作文は嫌いではないが日記は面倒で、若い時には「恋をしたら日記を書く！」と誰かの受け売りをした挙句に結局書くこともなかった(笑)。だが実際、日記を書いて添削してもらつて"お年頃"の私でも、ノートに赤ペンで記録が残ることで語彙も増え、言い回しも徐々に使えるようになるので非常に有効だった。翌年の秋に準 2 級を受験。ここで講師陣が検定の為の応援をしてくれた。3 級は実力で受かつて準 2 級以上は「検定の為の勉強」が必要だ、と受験勉強につきあつてくれた。文法の出題には規則性があることや長文読解の解き方など、前年には気づけなかつたことを教えてもらい試験に臨んだ。しかし自己採点は散々。文法の出来の悪さに加え、作文にのめり込みすぎて清書の時間が足らず最後まで書き終えることができなかった。さらに時折外国人と仕事をするので苦手ではない筈のアスコルトも今一つだった。そもそも腕時計を忘れた自分がバカだと己を罵つた。だが、結果は合格。途中で終わつてしまつた作文の得点が意外に高く助けられたのだ。書き続けた日記と講師陣のおかげである。

2017 年には日伊学院主催の「作文コンテスト」に応募。2 級作文でまさかの最優秀賞受賞。これで作文に対する不安はほぼなくなつた。とはいえ、普段のレッスンで本筋から逸脱した作文を書いて注意されることもしばしば。テーマに沿つて他人の話を引用したら、「質問文に『Secondo te (あなたの考えでは) ……』とあるので 0 点！」といったうっかりミスも。初歩の初歩である「質問を正しく理解する」ことを忘れてはならないと教えられた。



昨年は仕事の関係で検定を受験できず、またしても一人のイタリア人指揮者との仕事に明け暮れた。2 年前と違い、仕事の内容について議論すること

もあれば、通訳の居ない日にはその代わりにすることもあつた。彼は本番の少し前に妻のノラちゃんを来日させ「ヒロコはイタリア語ができるから彼女といなさい」とノラが寂しくないように気遣つた。だが仕事で同じ目的をもって話すことと世間話は違ふ。残念ながら私はノラとは少ししか話すことができなかった。まだまだだ。ただ彼は私に「打ち上げの会費は誰に払うの？」と、いかにも同僚らしい質問をした。この質問を私にしたのは「私のイタリア語が許容範囲だと彼が認めたのに違いはない！」と、ここでも前向きに考えた。次の目標は検定 2 級合格と来年来日する複数のイタリア人との仕事を成立させること。その為には「出来るイメージ」を持って「前向きに」勉強を続けようと思つた。

<練習あるのみ！>

イタリア語の勉強を始めてちょうど3年。勉強を始めた頃と比べると、会話力や聞き取り力がついたという実感はありましたが、正しくきちんと使うという点では不十分さを感じていました。仕事の忙しさを理由にイタリア語学習へのモチベーションが低下しつつあるような気もしていましたし、ここはひとつモチベーションを高めるために自分の実力を知り、そして正確にイタリア語を覚えて自信を持って使おうと思い、2017年10月に初めて3級を受験しました。いざ試験勉強を始めたもののどうやって勉強したらいいのかかわからず戸惑っていたとき、公式サイトでの学習ツール、eラーニングシステムを紹介していただきました。まとまった学習時間が取れなくても、朝晩の通勤時間にスマートフォンで筆記試験やリスニング試験の過去問に気軽に挑戦でき、何度も問題を繰り返すことで自分の弱点や問題の出題形式がわかるようになり、大いに活用させていただきました。このような学習環境が整っていることにただただ感謝です。

準備不足を感じつつ、とにかくチャレンジする気持ちで試験当日を迎えました。このような試験を受けるのは学生以来でしょうか。緊張しながらも最後まで集中でき、試験が終わったときは心地のよい疲労感でいっぱいでした。結果は……筆記問題や作文は予想以上に点が取れており基準点に十分達していたものの、リスニング問題がわずかに1点不足で不合格という結果でした。振り返ってみると、普段イタリア語を耳にする環境にいるので何となくイタリア語に耳が慣れているようにも思いましたが、正しく情報を聞き取って問題を解くというのは別のスキルが必要だということがよくわかりました。やはり練習あるのみですね。この経験は次回の試験に必ず活かさなければなりません。イタリア語は勉強すればするほど、新しい発見があり面白みが増していきます。何年かかるかわかりませんが、いつか1級まで合格することが私の夢です。これからも自分の目標に向かってイタリア語を楽しみながら勉強していきたいと思えます。

準2級挑戦者 A.Y.

<思い切って留学&検定受験>

Ciao a tutti! Come state? みなさん、こんにちは！ご機嫌いかがですか？ 私がイタリア語を勉強したきっかけは、仕事のためでもなく、習っている人に誘われた訳でもなく、とにかくイタリアがただ、ただ、好きだったからです。そんな私が初めてイタリアに行ったのは、大学の卒業旅行でした。学生時代からずっとサッカー選手や旅行好きの母の影響で、「早くあのブーツの形のおしゃれな国に行きたい!!」と思っていました。弾丸スケジュールの中、有名都市を10日間回り、イタリアの雰囲気を実際に肌で感じました。イタリアの人、言語、料理、建物、美術、音楽、自然の全てが、日本と異なり、予想をはるかに超える素晴らしさに心を震わされたのを覚えています。それから社会人となり、仕事に追われる毎日の中、イタリアに対する憧れは追いやられ、テレビや本でイタリア語を少し勉強したり、旅行にいったりする程度でした。そんな中、自分の人生においても、様々な困難が立ち塞がり、「何か変えたい、変わりたい!」と思い、2016年1月に、名古屋にあるイタリア語学校の扉を開きました。出迎えてくれた先生方の明るい笑顔は今でも忘れません。仕事の都合もあり、毎週ではなくても、毎回のレッスンがイタリアにいるみたいで、ものすごく幸せでした。

簡単な自己紹介や数字くらいしかわからなかった私ですが、思い切って5月中旬から3カ月間イタリアに留学することを決めました。とにかく時間がなく、あっという間に夢の留学生活が始まりましたが、なにせ4カ月の語彙力では、ホームステイ先でも学校でも、会話ひとつ理解できないという、もどかしさの連続でした。しかし、私にとっては大好きなイタリアにいる日々は夢のようで、「私には3カ月しかない!」という思いであえて「話さなければならぬ」環境にとびこみ、会話を重ねまし

た。あっという間に3カ月が過ぎ、帰国後の寂しさから、プライベートはさらにイタリア漬けの日々になりました。仕事から帰れば、イタリアのラジオを聞き、車の中ではCDを聞き、本を読み、友達やメールで連絡をとり、仕事以外のプライベートはほとんどイタリアに費やして



います。すると不思議と職場にもイタリア人の留学生が来て話す機会ができ、イタリア人の友達も増えていきまし

た。そんなある時、留学先で出会った方から3級に受かったというメールが送られてきました。その方は、すでに4・5級を受験してイタリアに留学しにきていて、私にイタリア語検定の存在を教えてくださいました。実際、今の自分はどのレベルにいるのか、自分も受けてみようと思ったのがきっかけです。試験に申し込んだことで、あえて自分を試験にむけて勉強をする環境に身を置くことで、またさらに勉強することができました。留学先では会話がメインでしたので、きちんとした正しい文法を勉強するのは、むしろ初めてでした。

2017年10月に初めてイタリア語検定にチャレンジし、幸運にも無事3級に合格することができました。受かったことで、さらにモチベーションが上がり、まだまだこれから準2級、2級と挑戦したいと思っています。私が好きな本に「夢はなくなならない……今を輝かせる努力をしていれば置き去りにしたつもりの夢でも、夢の方があなたを追いかけてくる」という一節があります。これからも将来の夢のイタリア生活に向けて、私らしく突っ走ろうと思えます。

検定ニュース

>>1 級合格者は全国通訳案内士試験 筆記試験語学科目が免除されることに決まりました！<<<

>>2018 年秋季、第 47 回検定が“外務省後援”となりました<<<

◇2018 年春季第 46 回試験志願者数報告

	札幌	仙台	新潟	東京	横浜	金沢	名古屋	京都	大阪	岡山	広島	福岡	宮崎	那覇	ローマ	ミラノ	計
準2級	4/4	9/9	2/2	132/153	28/30	0	19/20	20/23	41/43	2/4	1/2	11/13	0	2/2	7/7	1011	288/323
3級	5/6	7/9	1/1	195/248	37/46	3/5	18/20	29/31	60/70	9/9	6/6	7/7	2/2	1/1	9/9	14/16	403/486
4級	10/11	11/13	10/10	187/246	61/65	5/6	32/43	39/44	63/74	7/8	9/9	16/18	1/1	2/3	4/4	18/18	475/573
5級	13/17	12/14	5/8	160/210	40/50	4/4	32/42	22/27	53/67	5/7	5/5	32/39	1/1	4/4	2/2	11/11	401/508
合計	32/38	39/45	18/21	674/857	166/191	12/15	101/125	110/125	217/254	23/28	21/22	66/77	4/4	9/10	22/22	53/56	1567/1890

受験者数/志願者数

第 46 回検定でのアンケートから、受験者の感想などをピックアップしました

今回は選択回答式のアンケートも実施しましたが、集計がこの会報の入稿に間に合わなかったため、皆様から寄せられたコメントのうち目立ったものをここに紹介し、あわせて回答させていただきます。選択回答の結果は集計が済み次第 HP に発表いたしますのでご了承ください。

- 「本人確認が必要なのでは？」⇒1・2 級のみ写真を貼付した受験票により、本人確認を行っていますが、替え玉の写真が貼付される可能性もあるため、本人確認としては十分とは言えません。全レベルで身分証明書と写真による本人確認を行おうとすると、(特に大きな会場では)確認作業に多大な時間と労力(多くの受付要員)が必要となり、現在の運営予算では人件費が捻出できません。当面は現在の方式で運営せざるを得ない状況です。
- 「受験地を増やして欲しい」⇒今回から新潟会場を増設しました。
- 「過去問題集付属 CD に本番通りの音源を収録して欲しい」⇒CD の収録可能時間を越えてしまうため、現状でご容赦ください。
- 「正解表を即日公開して欲しい」⇒毎回多くいただくご要望なのですが、二つの理由から、これは不可能なのです。まず第一に、時差のあるイタリア会場でも同日に同一の試験問題を使用して検定が実施されるという事情があります。解答の漏えいを防ぐために、正解表を即日配布することはできません。第二の理由として、正解の検証手順が挙げられます。問題作成者から提出された正解は、問題検証委員により綿密にチェックされます。問題の秘匿性を完全に確保するため、試験が終了するまで、問題と正解は検証委員には開示されません。検証委員のチェック、及び(必要な場合は)問題作成者との協議のため、正解が確定するまでどうしても一両日は必要なのです。以上の理由により、正解の即日公開は不可能ですので、ご了承ください。
- 「コンビニ・プリントの値段が高い」⇒コンビニ・プリントの最低価格はローソンにより片面 1 枚 40 円と定められており、当協会は、この最低料金で販売しています。B4 両面印刷二つ折りで冊子の形に製本されるようにしていますので、4 ページで 80 円となります。従って、4 ページ減らせば、単価は 80 円(だけ)安くなります。問題冊子のパートはオリジナルの体裁を維持するために、ページ数は減らせません。解説のパートを今以上に文字を小さく、行間も狭くして 4 ページ単位で減らして詰め込むと、非常に読みにくいものとなってしまいうでしょう。現実的に可能な最低価格で配布していることをご理解いただければと思います。ちなみに、協会の手取りは販売金額の 35%に過ぎません。

●事務局よりホームページ活用のお願い www.iken.gr.jp

イタリア語検定試験のお知らせだけでなく、イタリア関係の情報・学校・リンク集など情報を満載しております。過去の問題も e-ラーニング・システムで配信しておりますし、コンビニプリントで過去問も配布しています。また、情報交換の場として掲示板をご用意しています。ご活用いただければ幸いです。ご要望や受験・お仕事体験談等、メール (info@iken.gr.jp) でお寄せください。

<2018 年度の試験日程ご案内>

◆第 47 回 2018 年 10 月 7 日(日) ◆第 48 回 2019 年 3 月 3 日(日)

▶伊検公式 LINE スタンプ好評発売中◀

伊検ならぬ伊犬のイタリアン・グレイハウンド、Iken 君と、その彼女の Ali ちゃんの楽しいスタンプで LINE の会話を楽しんでください！日本語もついています。



ウンベルト・エーコの『いいなづけ』

イタリア語学習者から文学好きまで、白崎先生の名訳と丁寧な解説でイタリア語を学びながら楽しめる 1 冊。朗読音声も PC やスマホでダウンロードし、聴くことが可能です。

NHK 出版 ¥1,900
 訳・解説 白崎 容子
 朗読 マルコ・ズバラッリ